

飛躍に向け 基盤を磐石なものへ

UACJグループは、中期経営計画「Global Step I」を「UACJグループの将来ビジョン」実現への「基盤強化」として位置づけ、成長分野・地域への供給力強化を中心に、世界的な競争力を持つ供給基盤の確立に努めています。2016年度は、タイのUACJ (Thailand) Co., Ltd. (以下、UATH) ラヨン製造所では一つの目標値であった月産1万トン達成し、北米ではConstellium社との合弁会社 Constellium-UACJ ABS LLC (以下、CUA) が本格稼働しました。また国内においても最適な生産体制の構築が完成しました。2017年度は「Global Step I」の完成をより確実なものにしていきます。

Global Step III

飛躍

2021～
将来ビジョン

Global Step II

成長加速

2018～2020
次期中期経営計画

Global Step I

基盤強化

2015～2017
中期経営計画

国内の生産品種移管が
ほぼ完了し、
最適な生産体制を構築

P37

米国の自動車用パネル材の
製造販売会社CUAが
操業開始

P25

2016年度の成果

タイのUATHラヨン製造所が
10月に月産1万トン達成

P35

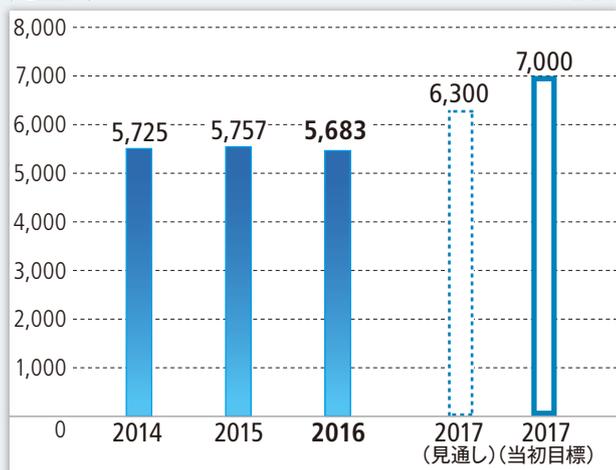
「自動車事業推進本部」
を新設

P28

中期経営計画の目標値に向けた推移

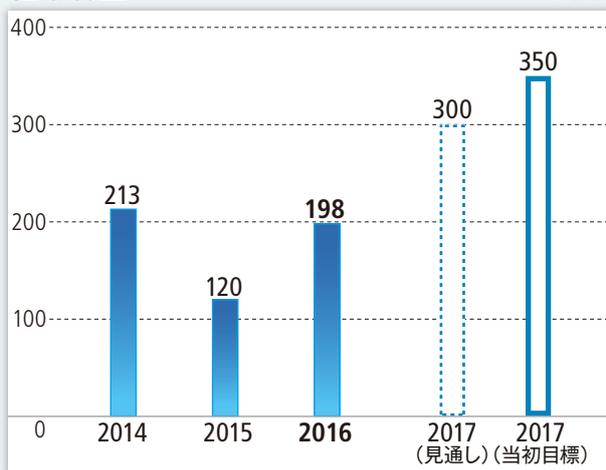
売上高

単位:億円



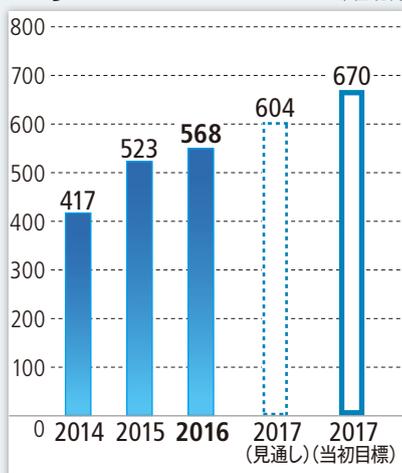
経常利益

単位:億円



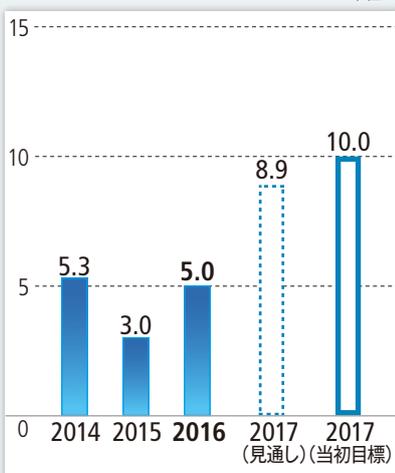
Adjusted EBITDA

単位:億円



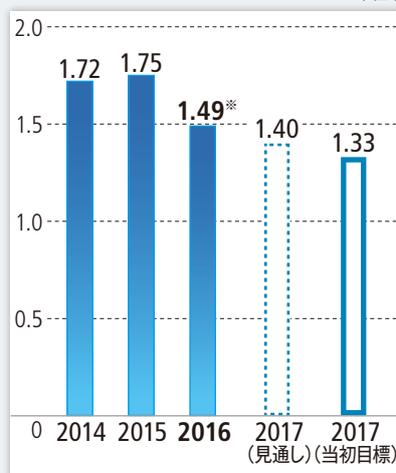
ROE

単位:%



D/Eレシオ

単位:倍



※劣後ローンの資本性考慮後

2016年度は注力しているタイ、北米ともに供給体制の強化が順調に進みました。タイではUATHラヨン製造所が月産1万トン達成し、さらなる生産能力増強に向けて追加投資を決定。また北米においても自動車用パネル材事業合弁会社が本格稼働し、缶材を供給するTAAのローガン工場においても追加投資を決定しました。一方、国内では製造所の品種移管がほぼ完了し、最適な生産体制を構築しました。

目標値として掲げる業績指標については、売上高は地金価格や為替換算の影響などで減収となりましたが、棚卸評価関係や統合効果によるコストダウンにより経常利益は増益と

なり、Adjusted EBITDA、ROEも増加しています。

また、D/Eレシオは50%の資本性認定を受ける劣後ローンと公募増資を2017年3月に実施したことにより、過去10年で最も健全性のある水準となりました。

今後も成長に向けた投資と財務体質の健全性のバランスを図りながら、成長戦略を推進していきます。なお、2014年12月に掲げた中期経営計画の当初目標には届きませんが、2017年度は増収増益を見込んでおり、いずれの業績指標も改善する予定です。

注：4月1日から3月31日までの事業期間を年度として定めています。2016年度は、2017年3月末で終了した事業年度を表します。